



(2) 大正十三年八月五日に復舊工事が完成した横濱燈臺の全景である。

(2) As the Lighthouses, at Yokohama, Look Today.

油を使ひ初めた西洋式燈臺

油の使用を初めた燈臺は慶長十三年、能登羽咋郡福浦に設置したものである。然し之は極めて幼稚なものであつた。我國洋式燈臺の建設は慶應二年英、佛、蘭、米四國と締結せる江戸條約により四國公使の建言を容れ明治二年正月元日觀音崎に點火せる燈臺を以て初とし、次で同年十月には安房野島崎燈臺及び伊豆神子元島燈臺の建設を見るに至つたものである。

無守人燈に更め今日に至つた。

大正十二年九月の震災には、該防波堤は約四米餘沈下したので、燈臺は燈塔基脚の鐵柱全部と、燈塔下室の大半とを海中に没したが、其の室内に装置された燈火燃料の**ピンチ瓦斯**（此の瓦斯は陸上より供給）**タンク**には、幸ひ残量があつて一時燈火を持續し得た。然しこれとて間もなく盡きるので、燈塔上室に、**アセチリン**瓦斯發生器を据付け、九月十二日より點火應急措置を講じ燈火の消滅を防止した。そして大正十三年度に於て、震災復舊費豫算が成立したので、五月二日より彌々復舊本工事に著手した。

復舊工事は、防波堤の、**コンクリート**塊上に設けた燈臺基脚鐵柱部分を、内務省で施工しつつあつた水堤**コンクリート**内に埋込み、燈塔下室以上を切離して、五十噸起重機により吊上げてこれを

復舊した防波堤上に一時据置きてその儘點燈を保持し、取除跡に建坪七坪九六の側壁高五米一五**コンクリート**造機械室を設け、その上に、取除けたる舊燈身を再び起重機を以て据付け、機械室には高壓式十斤入**アセチリン**瓦斯發生器二個及貯氣罐（高二米七二、徑一米一八）等を装置して、同年八月五日完成せしめた。

復舊のため燈高は十五米五五となり、従前の十二米一二に比し結局三米三三餘を増し、光達○、五哩を延長し、震前に聞いた燈火低きに失するの非難を除き、一層識別を容易ならしめた。尙此の種工事に起重機を用ひたるは初めての試みにして之が爲工事を簡便にし燈火を消滅せしめずして施工を完了し得た、此の工事費は三萬四千二百七十五圓である。